

14	上野国新田郡太田在姫子鉱泉場真景 *包紙有	大正2 (1913)年以 降	鉱泉湯元 大島館	1枚	赤石氏 収集 43
今はなき姫子鉱泉(現・太田市大島町に所在か)と、その近景および遠景が名所を中心に描かれています。					



現在の太田市大島町にあった「姫子鉱泉場」を鳥瞰図のような構図で紹介した絵図です。遠景には、噴煙を上げる浅間山、上毛三山（左から妙義山、榛名山、赤城山）が描かれています。

近景には「上毛かるた」の「太田金山（おおたかなやま）子育呑龍（こそだてどんりゅう）」で有名な大光院、「日本100名城」の1つである金山城の跡にある新田神社、鉄道（大正2年開通の東武桐生線か）などが描かれています。

「大島館」には2階建ての建物が数棟見えます。敷地の背後に「姫塚」がありますが、当館収蔵の壬申地券地引絵図「大嶋村」〔明治6（1873）年か、請求番号A0181AMA、文書番号299〕の北部には、半円状などの茶色い「塚」が複数描かれています。同じ場所ではないようですが、「姫塚」も似たような塚で、小型の古墳だったのかもしれませんが。

左下には鉱泉の効能やアクセス方法、駅名なども記載されています。包紙には近辺の伝承に登場する姫君をモデルにしたらしい女性のイラストが配されており、幅広く集客しようとした意図がうかがえます。

姫子鉱泉は当館収蔵の「新田郡鳥之郷村郷土誌（補遺）」〔大正3（1914）年、請求番号PF0007、文書番号73〕の村図にも記されていますが、現存しません。本資料は温泉大国・群馬の歴史の一端がうかがえるものです。

